

《資料1-4》

	5	4	3	2	1
1	先生の話聞くことにより、先生を身近に感じる。				
2	先生は、自分(たち)のことに注目し、よくみていてくれる。				
3	先生の話の内容から、自分(たち)を理解してしてくれる。				
4	先生と話したり、悩みごとを相談したりしたい。				
5	先生からの励ましで、自信が付き、やる気が出る。				
6	今までの苦勞や努力が認められ、満足している。				
7	話を聞いた後、気分がすっきりしてのびのび活動できる。				
8	もっとみんなに喜んでもらえるように何事にも取り組みたい。				

この調査結果から、両学級の生徒の多くが先生は自分たちのことをよくみて声をかけてくれている、先生の励ましで自信が付きやる気が出る、などと感じていることがわかる。《資料1-4, 項目2・3・5》

また、生徒が印象に残る先生からの話や励ましを書いた中に、A群生徒も次のような記述を寄せている。

- ・ a 男: よく印象に残っているのはガラスを割っておぼろしく  
寝た時先生に「お前はなんでもできるんだから  
何にでも挑戦して大人とかんばれ」と言われたこと
- ・ c 男: 音三吉のことで先生や、その部活のこもんの先生に  
元気があつたよりの話を聞いた。

- ・ d 男: 先生の音のおもしろい話、いろいろなもさくと  
楽しい気持ちになる。
- ・ e 男: テストの前日の先生の話と聞くこと  
自信がつく。やる気が出る。
- ・ f 子: テストの成績を通知表をもらったときなどに「自主  
学習と毎日の努力が良かったんだよ」と言われて  
もっと良かったと思いうれしかった。
- ・ h 子: 体育でうまくできなかった時に先生  
が最後までお人ほつて言ってく  
れしかった。テストはよかった。
- ・ j 子: ほは、いい事を注意され、ここからは  
気がつけ、おやまろいことを教えていただき  
細微、覚えておける、考えて行動しようと思

以上のことから、生徒の多くが本試案で行った教師からの適切な声かけを積極的に受け止めたことがわかる。このことから、本試案は、教師と生徒との人間関係をより望ましいものにしていくうえで効果があったと考えられる。

しかし一方で、生徒が先生と話したり相談したりする意識が低いことも事実である。《資料1-4, 項目4》今後、本実践で培った教師と生徒との望ましい人間関係をもとに、より一層両者の関係を深めていくことが大切であると思われる。

まとめ

- (1) 教師の適切な声かけは、教師と生徒との人間関係をより望ましいものにしていく基本である。教師が生徒一人一人を大事にする姿勢で声かけを行う本試案の実践によって生徒相互の人間関係も深まり、学級の雰囲気をおもしろいものと受け止めることができるようになった。このことから、本試案は、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を醸成する指導援助になったものと考えられる。
- (2) 本試案の実践を通して、教師自身が声かけの必要性を認識することができ、生徒も教師からの適切な声かけを積極的に受け止めていることがわかった。それだけに、常に教師は生徒一人一人の内面の理解に努めながら適切な声かけを行い、生徒一人一人を生かした学級づくりを心がけていくことが大切である。
- (3) 生徒や教師の意識から、本試案の場合、長期的に継続した取り組みが大切であることがわかった。今後、他の試案などとも組み合わせた取り組みを日常的に展開していくことが、学校不適応意識や状態をさらに軽減、解消させていくうえで有効であろう。